

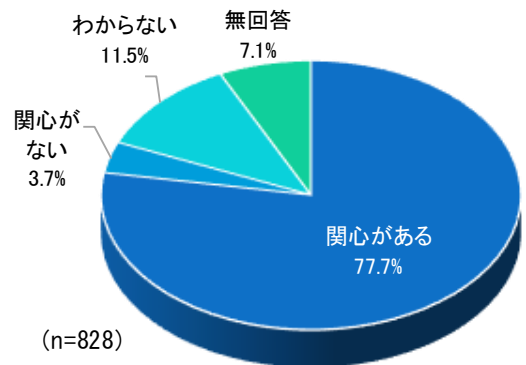
資料3 防災に関する町民意識調査結果

- 調査期間 令和元年 11 月 15 日～令和元年 12 月 13 日
- 調査方法 対象者を無作為抽出し、郵送により調査票の送付・回収
(総合計画策定に係る「まちづくりアンケート」として実施)
- 対象者数 1,000 人
- 回答者数 828 人
- 回答率 82.8%

1 防災に関する意識について

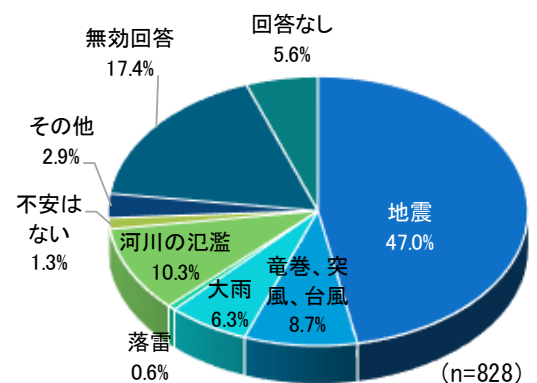
(1) あなたは防災や災害について関心がありますか。

	回答数	比率
関心がある	643	77.7%
関心がない	31	3.7%
わからない	95	11.5%
無回答	59	7.1%
全体	828	100.0%



(2) あなたが最も不安に感じる災害は何ですか。

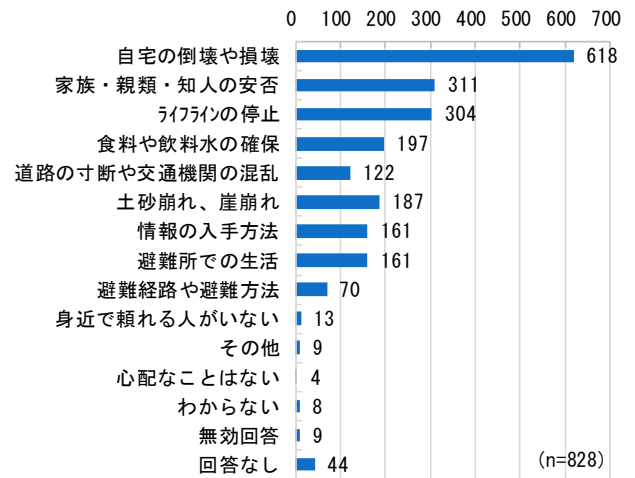
	回答数	比率
地震	389	47.0%
竜巻、突風、台風	72	8.7%
大雨	52	6.3%
落雷	5	0.6%
河川の氾濫	85	10.3%
不安はない	11	1.3%
その他	24	2.9%
無効回答	144	17.4%
回答なし	46	5.6%
回答総数	828	100.0%



その他：土砂崩れ(14人)、大雪(6人)、火山(1人)、火災(1人)

(3) 災害が発生したとき、不安に感じることは何ですか。(上位3つ)

	回答数	回答者比
自宅の倒壊や損壊	618	74.6%
家族・親類・知人の安否	311	37.6%
ライフラインの停止	304	36.7%
食料や飲料水の確保	197	23.8%
道路の寸断や交通機関の混乱	122	14.7%
土砂崩れ、崖崩れ	187	22.6%
情報の入手方法	161	19.4%
避難所での生活	161	19.4%
避難経路や避難方法	70	8.5%
身近で頼れる人がいない	13	1.6%
その他	9	1.1%
心配なことはない	4	0.5%
わからない	8	1.0%
無効回答	9	1.1%
回答なし	44	5.3%
全 体	828	-

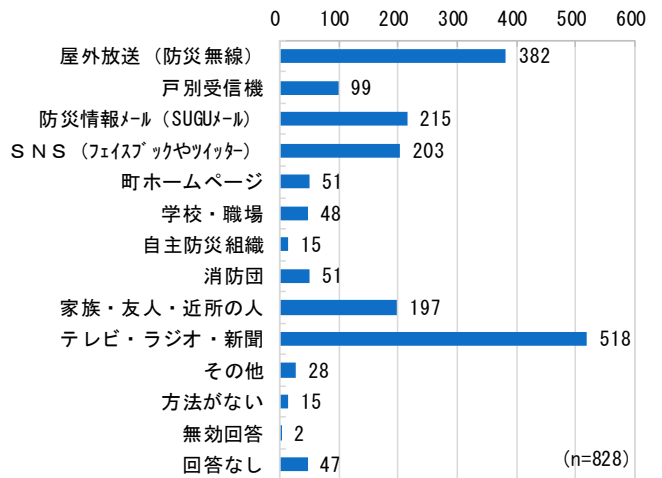


その他：農作物被害(2人)、お金(2人)、ペットの避難(1人)

2 防災情報について

(1) 災害情報をどのような方法で知りますか。(上位3つ)

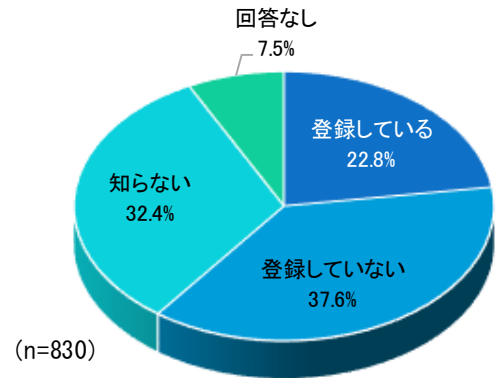
	回答数	回答者比
屋外放送（防災無線）	382	46.1%
戸別受信機	99	12.0%
防災情報メール（SUGUメール）	215	26.0%
SNS（フェイスブックやツイッター）	203	24.5%
町ホームページ	51	6.2%
学校・職場	48	5.8%
自主防災組織	15	1.8%
消防団	51	6.2%
家族・友人・近所の人	197	23.8%
テレビ・ラジオ・新聞	518	62.6%
その他	28	3.4%
方法がない	15	1.8%
無効回答	2	0.2%
回答なし	47	5.7%
全 体	828	-



その他：インターネット(8人)、スマートフォン・携帯電話(8人)、防災無線が聞き取れない(8人)、無線(1人)、どうやって知ればよいか教えてほしい(1人)

(2) 防災情報メール（SUGUメール）を受信登録していますか。

	回答数	比率
登録している	189	22.8%
登録していない	311	37.6%
知らない	268	32.4%
回答なし	62	7.5%
全体	830	100.2%

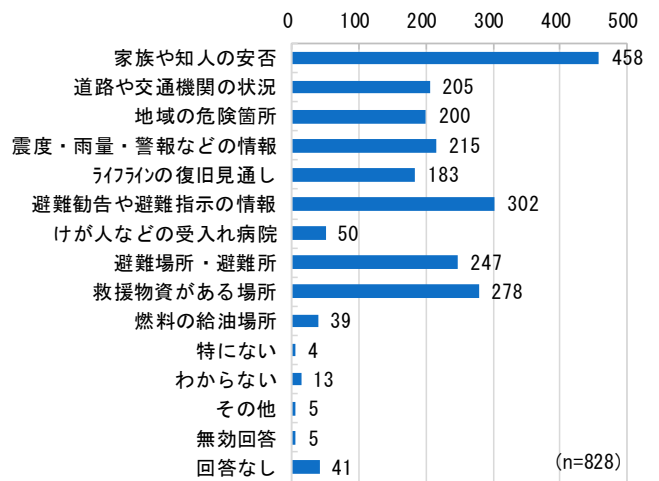


SUGUメールのことを「知らない」人の年代別内訳

	回答数	比率
10代	17	6.3%
20代	43	16.0%
30代	49	18.3%
40代	66	24.6%
50代	49	18.3%
60代	26	9.7%
70歳以上	16	6.0%
不明	2	0.7%
全 体	268	100.0%

(3) 災害が起こったときに必要な情報は何か。(上位3つ)

	回答数	回答者比
家族や知人の安否	458	55.3%
道路や交通機関の状況	205	24.8%
地域の危険箇所	200	24.2%
震度・雨量・警報などの情報	215	26.0%
ライフラインの復旧見通し	183	22.1%
避難勧告や避難指示の情報	302	36.5%
けが人などの受入れ病院	50	6.0%
避難場所・避難所	247	29.8%
救援物資がある場所	278	33.6%
燃料の給油場所	39	4.7%
特にない	4	0.5%
わからない	13	1.6%
その他	5	0.6%
無効回答	5	0.6%
回答なし	41	5.0%
全 体	828	

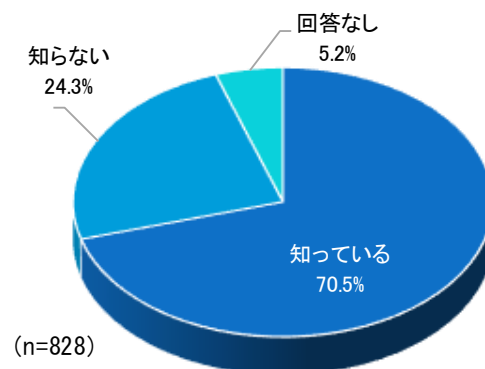


その他：ペットとの避難(1人)、保険(1人)

3 災害対策について

(1) あなたの地域の避難場所・避難所を知っていますか。

	回答数	比率
知っている	584	70.5%
知らない	201	24.3%
回答なし	43	5.2%
全体	828	100.0%

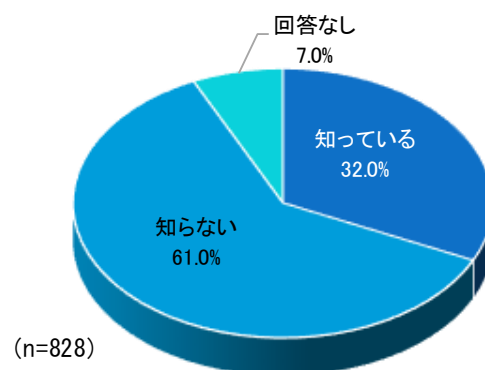


避難場所・避難所を「知らない」人の年代別内訳

	回答数	比率
10代	15	7.5%
20代	35	17.4%
30代	32	15.9%
40代	39	19.4%
50代	42	20.9%
60代	22	10.9%
70歳以上	14	7.0%
不明	2	1.0%
全 体	201	100.0%

(2) あなたの地域に自主防災組織があることを知っていますか。

	回答数	比率
知っている	265	32.0%
知らない	505	61.0%
回答なし	58	7.0%
全体	828	100.0%

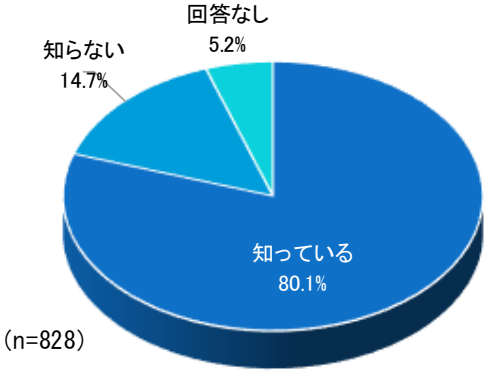


避難場所・避難所を「知らない」人の年代別内訳

	回答数	比率
10代	30	5.9%
20代	78	15.4%
30代	84	16.6%
40代	117	23.2%
50代	104	20.6%
60代	42	8.3%
70歳以上	46	9.1%
不明	4	0.8%
全 体	505	100.0%

(3) 消防団の存在・活動等について知っていますか。

	回答数	比率
知っている	663	80.1%
知らない	122	14.7%
回答なし	43	5.2%
全体	828	100.0%

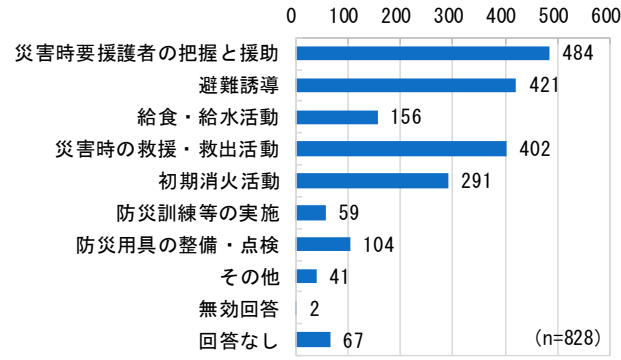


避難場所・避難所を「知らない」人の年代別内訳

	回答数	比率
10代	14	11.5%
20代	21	17.2%
30代	21	17.2%
40代	27	22.1%
50代	18	14.8%
60代	11	9.0%
70歳以上	9	7.4%
不明	1	0.8%
全体	122	100.0%

(4) 自主防災組織や消防団に何を期待しますか。(上位3つ)

	回答数	回答者比
災害時要援護者の把握と援助	484	58.5%
避難誘導	421	50.8%
給食・給水活動	156	18.8%
災害時の救援・救出活動	402	48.6%
初期消火活動	291	35.1%
防災訓練等の実施	59	7.1%
防災用具の整備・点検	104	12.6%
その他	41	5.0%
無効回答	2	0.2%
回答なし	67	8.1%
全体	828	



その他：危険箇所等の情報提供(3人)、屋外放送が聞こえるようにしてほしい(3人)、避難行動の事前周知(1人)、堤防の点検(1人)、存続すること(1人)、期待していない(1人)

(5) 町として今後どのような対策が必要だと思いますか。(回答 134人)

テーマ別に意見の多い順番に掲載した。

【防災行政無線について】 24人

- 10代男性学生：全ての地域に滞りなく屋外放送が届くようにする。
- 20代男性パート・アルバイト：放送の声が聞こえづらい
- 20代男性パート・アルバイト：防災無線はまったく聞こえない。お年寄りに聞こえなくて大丈夫か心配である。
- 40代男性農林業：防災無線をもっと聞こえやすくしてください。何を言ってるかわからない時がある。
- 40代女性パート・アルバイト：防災無線はなにを言っているのか聞き取れない
- 40代女性勤め人：防災無線をどうかしてください。
- 50代男性自営・会社経営等：常にハザードマップを見直す。
- 50代男性自営・会社経営等：屋外放送が聞きとりにくいのでわかりやすくなると良い

- 50 代男性農林業：防災無線。スピーカーの数が少なく、何を言っているか全くわからない。大雨の日に、窓を開けて無線を聞けというのか！！数を増やすか有線を再開してほしい。
- 50 代男性農林業：横倉地区の一部では屋外放送が聞こえない！屋外放送（防災無線：の意味がない！
- 50 代女性勤め人：屋外放送はよく聞き取れない。防災無線を無料で各家庭に配ってほしい(お年寄りにやさしい)：
- 50 代女性自営・会社経営等：屋外放送をもっと聞きやすくしてほしい
- 50 代女性主婦：防災無線が良く聞き取れないので、何かあった時に不安である。なんとかならないか。
- 50 代女性農林業：屋外放送は全く聞こえないし、何を言っているかわからない。有線に変わるものを考えてほしい。
- 60 代男性その他：防災無線の語り方がゆっくりすぎて何を伝えているのか、全くわからない。
- 60 代男性勤め人：防災放送が聞こえない。なんとかしてほしい。
- 60 代男性農林業：防災無線が聞こえない
- 60 代女性パート・アルバイト：有線も無くなり、防災無線もよく聞こえないので、考えてほしい。
- 60 代女性無職：屋外放送が木霊して、聞き取れずイライラする。
- 60 代女性パート・アルバイト：防災無線は意味なし。一人一人の自覚向上を毎月の広報に載せてもらえば頭に入ると思う。
- 70 歳以上男性農林業：防災無線はよく聞こえない
- 70 歳以上男性無職：防災無線が聞き取りにくい
- 70 歳以上女性パート・アルバイト：町の防災無線のお知らせ等が、家の中には聞こえなく、外ではエコーが入って聞き取りにくいので、対策をお願いしたいと思います。
- 70 歳以上女性無職：防災無線

【避難場所・避難所について】20人

- 10 代男性学生：町としてではないが、今回の台風 19 号でどこに避難すべきかわからなかった人もいたと思うので、一人ひとり確認するように呼びかける。
- 10 代男性学生：避難所の確保。
- 10 代男性学生：避難場所の周知
- 10 代女性学生：避難場所の確認等
- 20 代男性勤め人：避難場所などが確実にわかるように、地区の公会堂などに避難所の場所を常に掲示しておく
- 20 代女性学生：耐震工事。避難所の設置と場所の通知
- 20 代女性勤め人：ペットを連れて避難できる避難所の用意
- 30 代男性勤め人：避難場所の設備強化
- 30 代男性勤め人：避難場所を明確にする。指定された場所に避難所が開設されない場合がある。
- 30 代女性勤め人：災害別によるハザードマップの配布や避難所一覧など情報を町民一人一人に知ってもらうこと。
- 30 代女性勤め人：避難所の整備。プライバシーが守られる避難所作り。
- 40 代男性勤め人：避難場所が安全かどうかの調査
- 40 代女性パート・アルバイト：今年の台風の時、避難所の開設が夕方と遅く、避難をためらった。雨の中、暗くなってからの避難は難しい。台風や大雨などは予想できるのだから明るい日中のうちに避難所を開設して欲しい。
- 40 代女性パート・アルバイト：先の台風で避難された方が多くいたと聞きました。今まで山ノ内町は目立つ災害がなかったため、いざという時、何が安全か。避難していいのか。どこに避難していいのかなど、わからない人（役場の方も含めて：が多すぎると思います。（避難した方からあまりいいことを聞かなかったの：そういうことも必要かと・・・
- 40 代女性勤め人：避難経路・避難場所の情報周知
- 50 代女性パート・アルバイト：避難所が本当に安全なのか。避難所として機能するのか、再確認をしてほしい。避難勧告や掲示をもっとわかりやすくしてほしい。

- 60代女性無職：避難所での対応がどのようにされるのか、シミュレーションなどがなく、予想ができないので、訓練等が必要と思われる。
- 70歳以上男性無職：台風19号接近時は、避難勧告が出された時に、避難所の発表はあったが、その地域に該当する地域名の発表が無かったと思う。また、避難準備が出された時点で、避難所を開設すべきと思います。
- 70歳以上女性主婦：各家庭の避難ルート方法などを知らせる。
- 年代、性別、職業不明：防災無線が聞き取りづらいので、改善したほうが良いと思う。避難場所を近隣の市町村と連携してほしい(台風の時、遠かったので：。電線に掛かっている木や荒れた私有林がとても危険。災害時も大雪時も。

【危険箇所について】14人

- 10代男性学生：危険な場所をわかりやすくまとめたほうがいい
- 20代男性学生：ハザードマップの普及
- 20代女性パート・アルバイト：がけ崩れが怖いので補強してほしい
- 20代女性自営・会社経営等：水害対策
- 20代女性勤め人：ハザードマップ・各町民の周知
- 30代男性農林業：大雨時の水路の氾濫対策として、水路を見直す・大きくする。雪が降った後の道路の雪かきが不十分。車1台分しかかいていない。雪をかくのはいいけど、消防団と話し合って、消火栓の場所に集めないでほしい。
- 40代男性パート・アルバイト：洪水で流れた歴史がある場所に消防署という謎
- 40代男性勤め人：今後起こりうる災害に向けてインフラ整備救援大勢、情報の開示をしてほしい
- 40代男性勤め人：台風対策ならば、河川のシミュレーションの見直し、山の地水力の向上。コンクリートより土の表土の強化。
- 40代女性自営・会社経営等：河川等水路を含めた保守や管理を充実させてほしい。
- 40代女性農林業：とりあえず吉沢生活センターから上の林道が近年、雨のたびに崩れているので、抜本的な改善を早急をお願いしたい。すぐ下に吉沢組の住宅があり非常に危険
- 50代女性観光業：急傾斜危険区域の対策を早急に
- 60代男性無職：夜間瀬川水系の常時管理・事前の危険情報。
- 70歳以上男性無職：道路(歩道)をもっと広く。

【自主防災組織・消防団について】13人

- 20代男性勤め人：なぜこんなに消防団が盛んなのか不思議です。整理・統合は不可能なのではないでしょうか。
- 20代男性勤め人：消防団員の負担を減らすこと！！年末夜警だけではなく、11月にも夜警をするのをやめてほしい。消防団で大会に向けた練習期間をしっかりと守るように徹底を。
- 20代女性勤め人：災害が起こった時に自主防災組織や消防団がどのように動くか、事前に把握？計画？してもらうこと。
- 40代男性勤め人：消防団組織の見直し(定員等)：
- 40代女性勤め人：消防団の負担を減らし、大勢の人が消防団に入りやすくすること。自主防災組織を知りたい。
- 50代男性観光業：少子化に伴う消防団の見直し。
- 50代男性勤め人：若者の負担となる消防団は時代遅れ感が強い。地域防災組織、岳南消防本部等に対応する。給料をもらっているのだから。
- 50代男性勤め人：消防署を充実させ、自主防災組織や消防団の負担を減らすこと。事実上、消防団としての消火活動や支援はできないに等しいと思う。
- 50代女性パート・アルバイト：まずは、自主防災組織・消防団の活動をもっと知ってもらいPRしてはどうですか。
- 50代女性勤め人：安心安全な自主防災活動を期待したい
- 60代男性農林業：非常時には消防団の力が必要になるので、団員の負担を減らすため、ポンプ操法大会と小順検を廃止されたい。
- 60代女性勤め人：人員不足が心配。消防団員の方の精神的・肉体的な負担も気になるので軽減できれば良いと思います。

- 70 歳以上男性自営・会社経営等：消防団員の不足が深刻化しています。大会等のための訓練等は見直して、団員の負担を軽くすべき。各分団長は役場の人で。

【情報提供について】 12 人

- 10 代女性学生：災害の情報をより速く報告すること。
- 30 代男性勤め人：正確な情報を多くの住民に伝える手段
- 30 代男性農林業：スピーディな情報発信
- 30 代女性パート・アルバイト：正確な情報
- 30 代女性勤め人：確実な情報
- 40 代男性勤め人：先の台風 19 号での防災情報メールの発信が遅かった。的確に必要な情報を即座に流してもらいたい。
- 50 代男性自営・会社経営等：防災メールを広く認知させてほしい。
- 50 代男性勤め人：広報周知
- 50 代女性パート・アルバイト：10 月の台風では SUGU メールがとても役に立ちありがたいと思いましたが登録していない人もまだまだいるので登録を促されたらいいと思います
- 60 代女性勤め人：的確な情報発信
- 60 代女性無職：有線が廃止になってしまったので防災用受信機の戸別配布をお願いいたします
- 70 歳以上女性主婦：台風 19 号の時、個別受信機を聞いていました。避難勧告と言われて、どの地域なのか、自分の地域なのかわからなかった。

【訓練の実施について】 10 人

- 10 代男性学生：町は防災に関して情報が薄いと思う。年に 1 回は防災訓練や防災情報の発信を。
- 20 代女性勤め人：いざというときにパニックにならないように日頃から準備・訓練・情報の公開をしておくこと。
- 40 代女性パート・アルバイト：避難訓練など日頃から訓練する
- 50 代男性勤め人：災害マップをもとに実際に地域の皆様が参加して活動できるように計画、実施を考え、行動に移してください。
- 50 代男性勤め人：小規模地域での防災訓練
- 50 代男性勤め人：地区ごとの避難訓練
- 50 代男性勤め人：町民全員で取り組む訓練
- 50 代男性勤め人：避難訓練・湧き水で飲める水のある場所を知らせる。
- 50 代男性自営・会社経営等：想定外のことが起こる今日この頃ですので、予防にこしたことはないと思うので、町民一体となって訓練が必要と思います。
- 50 代女性勤め人：色々な状況を想定した訓練。

【高齢者・障がい者・災害弱者対策について】 5 人

- 10 代男性学生：高齢者の中でも動けない人や早く行動できない人の避難について。
- 20 代女性勤め人：どこに支援を待っている人がいるか、すぐわかるように対策をしておくこと
- 30 代女性パート・アルバイト：情報弱者(お年寄り等)：対応の情報提供。
- 30 代女性勤め人：高齢者、障害者など一人では避難できない人がどこに住んでいるかをしっかり把握しておくこと
- 60 代男性勤め人：高齢者の独り暮らしの家の把握。

【意識啓発について】 4 人

- 30 代男性勤め人：山ノ内町は災害が少ない町なので、町民の災害に対する意識が低い？意識向上が必要
- 40 代女性農林業：常日頃の防災意識が必要だと思う
- 50 代男性観光業：各組で避難場所を確認するなど、災害対応に対する意識を高める。

- 50代女性パート・アルバイト：「今まで大丈夫だったから今回も大丈夫だろう」と考えがちな住民の認識を変えること。

【その他】32人

- 10代男性学生：はしご車
- 10代女性学生：特になし
- 20代男性学生：備え。備蓄。
- 20代男性勤め人：多くの人に存在を知ってもらおう
- 20代男性勤め人：台風19号のようなことがまた起こるかもしれない。
- 20代男性農林業：組織や消防団に負担をかけすぎない。町でできることは町でやる。
- 20代女性自営・会社経営等：全て。全部中途半端にやっているようにしか見えない。
- 30代男性勤め人：町が孤立したらどうするのか
- 30代男性自営・会社経営等：ドローンシステムの充実
- 30代女性勤め人：母がSUGUメール登録していて、色々情報がもらえるらしいので、その存在をもっとみんなに知ってもらった方がいい。県外からの当たり屋などの情報もほしいです。
- 40代男性パート・アルバイト：特になし
- 40代男性勤め人：横の連携
- 40代男性勤め人：大規模な防災センター（避難所：の設置
- 40代男性勤め人：負担の軽減
- 40代女性パート・アルバイト：つつみ住民活動センター、ボランティアセンターのバックアップ。町というより社協の働きにかかっていると思うので、町はその全面的な支援を行うことが対策ということになるかと思う
- 40代女性パート・アルバイト：災害時の時、どのような対処なのか、詳しく教えてもらいたいです。
- 40代女性勤め人：町でできることは安全な場所、すごしやすい環境。さむくない、ひもじくない、健やかに過ごせるようにしてもらいたい。一人一人努力はするけど。
- 40代女性農林業：同じ町内でも地震の震度が違う気がする。町内に設置されている震度計はあまり揺れない場所であると聞いた。できれば、一番揺れの激しそうなところに設置してほしい。
- 50代男性勤め人：知らないことばかりだから知らない。
- 50代男性自営・会社経営等：わかりません
- 50代男性自営・会社経営等：全住民の協力
- 50代男性主婦：病院
- 50代女性パート・アルバイト：(4：については全てが必要だと思います。
- 50代女性勤め人：SNSの発信。非常持ち出し袋の配布。
- 50代女性主婦：上記のすべての事柄
- 60代男性無職：家族の中にタブレットを置く
- 60代女性パート・アルバイト：連絡網の充実
- 70歳以上男性自営・会社経営等：町では、ここ数年災害らしきものがなく、本当に助かります。万が一災害が発生した時は機敏な対応をお願いします。
- 70歳以上男性無職：消防の強化(防災のプロを育成する：
- 70歳以上男性無職：大雨の対応
- 70歳以上男性無職：町が一体となること。(地域工ゴの撤廃：
- 70歳以上女性自営・会社経営等：わからない